

事務事業名	白根桃源図書館維持管理事業		所属部局	教育委員会	単位番号	12462									
			所属課室	市立図書館	課長名	深澤 知恵美									
	☐ 実施計画事業		所属担当	白根桃源図書館	担当者名	上田 弥生									
基本政策	基本計画	V 個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目					
政策	22	生涯学習ネットワークの整備充実	事業区分	01	一般	1	0	4	0	4	0	3	0	0	4
施策	35	生涯学習システムの推進		☐ 国の制度による義務的事業	☐ 施設等維持管理事業										
				☐ 県の制度による義務的事業	☐ 補助金交付事業										
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度)		法令根拠	図書館法 南アルプス市立図書館条例											
事業の内容・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 図書館施設及び備品の適切な維持管理に努め、市民が安全に快適に利用できる環境を提供する。 ・施設の維持管理に関わる委託契約の確認と締結 ・施設及び備品の安全点検 ・施設内の環境美化	期間限定複数年度 (年度)		事業費の主な内訳 (22年度)												
			項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)												
			消耗品費 20 施設維持管理委託 287												
			燃料費 6 リース料 64												
			光熱水費 1,032 修繕料 111 手数料 129 計 1,649												

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	施設及び備品の安全点検 施設内の清掃
23年度活動予定	施設及び備品の安全点検 施設内の清掃
② 対象 (この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	
図書館施設	
③ 意図 (この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
図書館施設が利用者にとって安全で快適な空間となる。	
④ 上位目的 (どのような結果に結び付けるのか)	
市民が図書館を快適に利用することができる。	

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 安全点検回数	回数
イ 清掃実施回数	回数
ウ	
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 施設の延べ床面積	m
イ 備品数	点数
ウ	
⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 開館日数	日数
イ	
ウ	
⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 図書館施設利用者数 (来館のみを除く)	
イ	

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	1,595	1,649	1,648	1,630	1,630	1,630	
	事業費計 (A)		千円	1,595	1,649	1,648	1,630	1,630	1,630	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	305	305	163	163	163	163	
		人件費計 (B)	千円	1,361	1,361	646	646	646	646	0
		(A)+(B)	千円	2,956	3,010	2,294	2,276	2,276	2,276	0
	活動指標	ア 回数		12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	
		イ 回数		284.0	284.0	283.0	286.0	284.0	284.0	
	対象指標	ア m		336.0	336.0	336.0	336.0	336.0	336.0	
		イ 点数		91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	
	成果指標	ア 日数		284.0	284.0	284.0	284.0	284.0	284.0	
		イ								
	上位成果指標	ア		17,833.0	17,046.0	17,557.0	18,083.0	18,625.0	19,183.0	
		イ								

(3) この事務事業を取り巻く状況 (対象者・社会状況等) の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	平成24年11月に、白根生涯学習システム施設の一環として、白根桃源図書館が開館した。平成15年の合併に伴い、市立図書館として維持管理されることになった。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	合併して市立図書館としてのシステムが統一されたので、白根地区だけでなく、多くの市民に利用されている。
③ 事務事業に対して関係者 (市民、事業対象者、議会等) からどんな意見・要望が寄せられているか?	蔵書が増え、閲覧スペースも狭く、学習室やおはなしコーナーもないので、増築や改築または移転ができないのかという意見が寄せられている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☒ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☐ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	・平成13年度にウッドデッキ (屋外図書館) を増設した。 ・平成18年度から、隣接する市の施設の1室を閉架書庫として利用している。 ・平成19年度、屋根樫の老朽化により雨漏りがあったため、樫の補修工事を行った。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	・春の子ども読書まつりを白根児童館と合同開催とし、場所も白根児童館の多目的スペースでおこなっている。 また学習室についても、18歳までの学生は児童館の学習室を利用させてもらっている。

事務事業名	白根桃源図書館維持管理事業	所属部	教育委員会	所属課	市立図書館
-------	---------------	-----	-------	-----	-------

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない (見直し余地がある) ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由↓] 白根地区の公共図書館として、赤ちゃんから年配の方まで、多くの市民に利用されている。子どもの読書活動や生涯学習を支援する施設として欠かせないものである。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由↓] 他の文化施設と併設されているわけではなく、図書館施設として独立しているので、市が維持管理することが妥当である。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☒ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 適切である ⇒ [理由↓] 館内に十分なスペースがなく、施設も年々老朽化してきていて、修繕料もかかっているため、増改築または他の公共施設への移転などを考えていく。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☒ 向上余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 向上余地がない ⇒ [理由↓] 建物は築20年を過ぎ手狭になり古くなってきているが、家具の配置や環境美化等を工夫し、市民が快適に安全に利用できるように努力する。また、児童館と連携を図りながら、子ども向けの事業などは、児童館と合同で実施できるように工夫していく。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☒ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 統合・連携ができない ⇒ [理由↓] 旧町村ごとに図書館が設置され、車に乗れない人でも、徒歩や自転車などで行ける地域の図書館として利用されている。
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容↓] 市民の学習や情報収集のために必要な施設であるため、なくなった場合は市民の生活に大いに影響をきたす。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由↓] 多くの市民から利用されて、子どもから年配者までの読書活動や生涯学習を支援しているため、休止や廃止はできない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費 (コスト) を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓] 施設の老朽化とともに修繕箇所が多くなってきているため、これ以上の削減は無理である。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？ (事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓] 平成22年度までは正規職員2人と常勤の臨時職員2人で業務をおこなってきたが、平成23年度からは正規職員1人と常勤の臨時職員2人で業務にあたっている。独立館として運営しているため、これ以上の削減は無理である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由↓] 地域の住民だけでなく、市内の多くの住民からも利用されていて、子どもの読書活動から大人の生涯学習までを広く支援している。

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括 (事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	旧白根町時代に古い建物を図書館に改築した施設であるため、狭い中で老朽化している。市民が快適に利用できるよう環境美化・安全面に努めているが、現在の所蔵資料を活かすのも、公共施設への移転が望まれる。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性 (Check1の結果から定める)・・・複数選択可 ☐ 廃止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携 (有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善 (公平性⑨の結果) ☐ 休止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☒ 成果向上 (有効性④の結果) ☐ 現状維持 (全評価項目で適切) ☐ 必要性検討 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減 (効率性⑦、⑧の結果)		(3) 改革・改善による方向性 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☒</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☒	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☒	☐																				
	維持	☐	☐																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について ① 近隣の公共施設の利用を考える。 ② ③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 ① 白根桃源文化会館の一部を図書館として利用するなどの方法も考えられる。 ② ③		(5) 事務事業優先度評価結果 <table><tr><td>成果優先度評価結果</td><td>⑫</td></tr><tr><td>コスト削減優先度評価結果</td><td>⑥</td></tr></table>		成果優先度評価結果	⑫	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑫																							
コスト削減優先度評価結果	⑥																							